

## 大阪・普賢寺遺跡

ふげんじ

所在地 大阪府門真市垣内町

1 所在地 大阪府門真市垣内町  
2 調査期間 一九八四年(昭59)七月～八月

3 発掘機関 大阪府教育委員会

4 調査担当者 福田英人

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 平安時代末～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

普賢寺遺跡は門真市垣内町に位置する寺院跡で、古くより瓦が出土し、近接する真言宗寿命院は普賢寺の塔頭跡に建立されたと伝えられていた。一九八四年、

当地に区画整理事業が計画され、それに先立ち大阪府教育委員会が約八〇〇m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。その結果、鎌倉時代から室町時代に至る溝・柱穴・土壙墓等が発見された。遺物は、



(大阪東北部)

等が発見された。遺物は、  
十三世紀から一五世紀後半

の土師器・瓦器・国産陶器・中国製陶磁器が多く、木製品として箸・曲物・漆器椀、また銅製の六器・香炉等の仏具も認められている。卒塔婆が出土したのは寺院周縁を画するように流れる溝で、深さ約一・三m、幅約二m、断面U字状を呈していた。埋土は底付近約二〇cmで暗灰色の砂礫が堆積し、そこから上は暗灰色の粘質土層が覆っていた。卒塔婆は下層の暗灰色砂礫層中から出土した。同溝の埋没時期は出土した国産陶器から見て一五世紀後半頃と考えられる。

## 8 木簡の积文・内容

(1) × 无阿弥陀佛

（梵字）  
妙禪尼升也

(320)×(47)×3 061

表は「南無阿弥陀仏」の「南」が欠損している。裏は年号と共に戒名が記され、「尼」から女性と思われる。卒塔婆と考えられるが、末字より下端までが短かく、地中に埋め込まれたものではない。

(福田英人)

